

市町村指定文化財取材票<表>

取材日	2023年	2月	4日	(参加・記入者) 石井宏子	
取材参加者	大谷	小倉	鈴木	茶谷	西田
	西野	灰藤	東辻	宮本	本井
取材対象先	奈良市：十輪院の銅造釈迦誕生仏・木造理源大師坐像				

所在地	奈良市十輪院町27				
所有者(取材 対応者)名	十輪院 住職 橋本昌大 師 (個人情報守秘)		連絡先 十輪院 0742-26-6635		
	PCアドレス				
取材申込	申込先・行政名など：十輪院				
市町村 指定文化財	彫刻 2軀	銅造釈迦誕生仏 (1980(昭和55)年1月17日 指定) 木造理源大師坐像 (2022(令和4)年3月25日 指定)			
	建造物 棟				
文化財指定理由	銅造釈迦誕生仏：右手中肘より先は失われているが、柔らかで愛らしい表情を持つ誕生仏の優品 木造理源大師坐像：桃山時代に活躍した南都大仏師宗印の一作として注目されまた奈良市内の桃山彫刻の基準作として価値が高い。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	昭和期に天井付近に空気管の火災感知器を設置、異常発生時には庫裏に通知される。お寺のHPやリーフレットによると、平成8年防災施設が完成し、整備された。	液体ろうそくを利用したり、拝観者がいない時はこまめに火を消しておられるなど、火災防止・汚れ防止には細かい気配りをされている。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	ネズミ・イタチなどが境内に見られることもあったが、被害はない。 拝観者も多いが、戸締りをこまめに行っておられる。	境内の建築物・庭園・仏像等も 大変綺麗に維持されている。
管理者の全体的要望・提案など	上記以外の対策として、赤外線監視装置も設置している。	

取材を終えて感じた文化財保護状況の全体的今後の課題(修復、維持、管理、環境など)
 元正天皇の勅願寺と伝わり多くの寺宝をお守りされ美しく維持管理が行われている。昨秋にも文化財の修復がなされたようにより良い状態で保守を続けていただきたい。お寺の方が堂内で説明等をされていることも拝観者の理解や不測のリスクの軽減に役立っている。「おやつくらぶ」「カレー会」など様々な活動で広くお寺を身近に感じられる機会を作っておられることもとても意義のあることだと思った。

市町村指定文化財取材票<裏>①

取材日	2023年	2月	4日	(参加・記入者) 石井宏子	
取材参加者	大谷	小倉	鈴木	茶谷	西田
	西野	灰藤	東辻	宮本	本井
取材対象先	奈良市：十輪院の銅造釈迦誕生仏・木造理源大師坐像				

<<写真撮影・掲載許可済>>

文化財指定名 銅造釈迦誕生仏	
文化財（正面写真）	文化財（角度を変えて、写真）
	
十輪院HPよりご許可を得て掲載	保管庫
	
文化財の由緒・説明板の有無など	記入者の感想
<p>奈良時代（十輪院HPでは白鳳期）に造られた銅造の釈迦誕生仏立像（像高6.8cm）で寺創建時からの仏像とも伝わるが、記録はないとのこと。説明板は写真のように、奈良市指定文化財・銅造釈迦誕生仏・奈良時代と書かれている。小さな仏様で、他の寺宝と共に保管庫の中に安置されている。保管庫は市の指定を受けた時に、奈良市が購入したもので、しっかりした造りのものである。</p>	<p>長い裾をまとい足は足先だけが見えている誕生仏。表面の荒れや右腕が欠失しているのが惜しまれるが、愛らしい表情と共に気品も感じられた。綺麗に保管庫の中に入れられている。歴史あるお寺で多くの寺宝を持っておられるため、見過ごされる場合もあるかと感じたので、この誕生仏も、案内板などに工夫をしていただき、より多くの人に足を止めて見てもらえるようになれば...と思った。</p>

市町村指定文化財取材票<裏>②

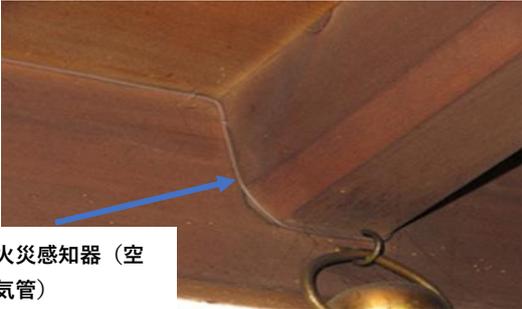
取材日	2023年	2月	4日	(参加・記入者) 石井宏子	
取材参加者	大谷	小倉	鈴木	茶谷	西田
	西野	灰藤	東辻	宮本	本井
取材対象先	奈良市：十輪院の銅造釈迦誕生仏・木造理源大師坐像				

<<写真撮影許可済>>

文化財指定名 木造理源大師坐像

文化財（正面写真）	文化財（角度を変えて、写真）
	 <p>油煙が少ない「液体ろうそく」を使用</p>

本堂床下

 <p>火災感知器（空 気管）</p>	 <p>建物床下に礎石を置き、柱が 直接土に触れることがないので腐食が避けられる構造</p>	
---	---	---

文化財の由緒・説明板の有無など

平安前期に南都で学び、後に真言密教の灌頂を受け、京都に醍醐寺を開いた理源大師聖宝の坐像。造内墨書銘により1614(慶長19)年十輪院の僧善賢が施主となり、宿院仏師の系統をひく南都大仏師、宗印と弁蔵によって造立されたことが分かっている。ヒノキの寄木造・玉眼・彩色仕上で像高80.9cm。像の傍に奈良市指定文化財の木造理源大師坐像と書かれた案内板が置かれている

記入者の感想

本堂の右脇壇に安置されている理源大師坐像は力強く落ち着きのある木造彫刻で、作者の宗印は京都方広寺大仏や金峯山寺蔵王権現も造立した著名な宿院仏師。「沙石集」でも取り上げられた本堂中央の有名な石造地藏菩薩と石仏龕に人が集まるが、こちらの御像も桃山時代を代表する南都大仏師の肖像彫刻なので、併せて、足を止めてじっくり拝観をお勧めしたいと思った。